

競 技 役 員

(主)=主任 (兼)=兼務 ①=4/22 ②=4/23

監 察 員 (主)齊藤 宗喜 山本 隆 甘利 裕志 檜山 信幸 林 浩司
 丸山 健志 榎田 俊幸 五十川正彦 唐木 陽平 太田 直希
 神津 晴通 後小路正人 佐藤 立至 久保田明雄 小宮山勝一①
 小矢沢周一①
跳 躍 審 判 員 (主)小林 至 有賀 大成 篠原 克修 櫻井 奈帆 桐山明日香
 林 知彦 荒井 洋光 矢野 清隆 宮澤 誠 石川 和義
 片平真理子 出川 雄基 北島 一夫 中澤 廣幸 山本 浩文
 小林 靖雄① 田中 米人② 佐藤 賢一②
投てき審判員 (主)箕輪 健二 箱山 量一 良波 克也 藤原 牧人 滝澤 克彦
 友田 利男 酒井 珠良 野村 勝己 吉田 昭男 小林 俊一
 青木 晃治 清水 幸雄① 小林 靖志②
計測員(科学) (主)小林 伸広 大庭 達也
医 務 員 (主)大坪 章男 常田 真樹 島田まゆみ 龍崎 大地② 小林 未佳②
会 場 係 (主)寺島 大士 大竹 正雄
競歩審判員 (主)掛川 和彦 大坪 章男 後小路正人 北澤 忠弘 横打 史雄
 (全員兼務) 北原三代志 赤沼 広志
競歩記録員 (主)田中 聡 三代澤芳男
補 助 員 係 (主)石川 和義 下條 正紀

補 助 員 一 覧

| 役員部署 | | 担当校 | | | | | | | | | |
|-------------|-----|------|----|------|---|-----|---|------|---|----|---|
| 庶務 | 2名 | 長野西 | 2 | | | | | | | | |
| TIC | 2名 | 市立長野 | 2 | | | | | | | | |
| ウォームアップ場 | 3名 | 須坂 | 3 | | | | | | | | |
| 記録・情報処理 | 5名 | 長野 | 5 | | | | | | | | |
| 写真判定(兼周回記録) | 3名 | 長野 | 3 | | | | | | | | |
| 風力計測 | 4名 | 長野日大 | 4 | | | | | | | | |
| 用器具 | 10名 | 須坂 | 7 | 須坂創成 | 3 | | | | | | |
| 競技者 | 9名 | 長野東 | 5 | 篠ノ井 | 4 | | | | | | |
| 出発(兼競歩) | 13名 | 長野日大 | 2 | 長野吉田 | 2 | 松代 | 4 | 長野工 | 3 | 長野 | 2 |
| スターター(兼SIS) | 4名 | 長野高専 | 4 | | | | | | | | |
| LED表示盤 | 6名 | 長野高専 | 6 | | | | | | | | |
| 跳躍 | 14名 | 長野吉田 | 4 | 長野日大 | 4 | 飯山 | 4 | 市立長野 | 2 | | |
| 投てき | 10名 | 更級農 | 5 | 須坂創成 | 3 | 長野西 | 2 | | | | |
| マーシャル | 3名 | 飯山 | 3 | | | | | | | | |
| 合計 | 88名 | | 88 | | | | | | | | |

競技注意事項

1. 競技規則について

本大会は2017年度日本陸連競技規則および本競技会申し合わせ事項により実施する。

2. T I Cについて：競技場正面入口1階ロビーに置き、以下の業務を行う。

- (1) 競技者受付。受付の際には、プログラムと一般競技者にはナンバーカードを配布する。
- (2) プログラムに記載ミス（氏名、フリガナ、学年、所属等）に関するプログラム訂正用紙（プログラム巻末に添付）の受付。
- (3) 抗議・上訴の受付、クレーム、他各種問合せ、落とし物など。
- (4) プログラム販売（1冊500円）。

3. 招集について

- (1) 招集所は100mスタート地点側付近に設ける。
- (2) 各種目の招集開始時刻ならびに完了時刻は、競技日程に記載の通りとする。
- (3) 招集の際、ナンバーカード・スパイクピン、商標等のチェックをする。
- (4) 代理人による招集は認めない。2種目を同時に兼ねて出場する競技者は、第1種目の招集時に競技者係に備え付けの「2種目同時出場届」を競技者係に提出すること。届け出が完了すれば、第2種目の招集を事前に受けることができる。
- (5) リレーのオーダー用紙（プログラム巻末に貼付）は、招集完了時刻の60分前までに競技者係に提出すること。
- (6) 棄権をする場合は、本人または代理人が必ず競技者係に申し出ること。招集完了時刻に遅れた競技者は当該競技を棄権したものとみなす。
- (7) 競技場内へは、すべて招集所から入場し、競技役員（競技者係・マーシャル等）の指示・誘導によって行う。また、競技終了後はすべてフィニッシュ地点後方の通路から退場すること。また、出場する選手、競技役員、補助員、報道関係者以外は競技場内に入ることはいできない。

4. ナンバーカード

- (1) ナンバーカードはそのままの大きさと胸と背部に確実に固定すること（跳躍競技については胸または背部どちらかでよい）。
- (2) 800m以上の競技者と4×400mリレーのアンカーは、腰レーンナンバー標識をパンツ右側の上部、やや後ろにつけること。さらに3000m以上の競技者は、胸と背にレーンナンバー標識をつけること。
- (3) 腰レーンナンバー標識、レーンナンバー標識は競技者係で配布し、競技終了後に返却すること。

5. 競技方法について

(1) トラック競技

- ①レーン順はプログラム記載の通りとする。
- ②短距離走では、競技者の安全確保のため、フィニッシュライン通過後も自分に割り当てられたレーン（曲走路）を走ること。
- ③スタートの合図は英語で行う。
- ④不正スタートは1回で失格とする。
- ⑤予選のあるトラック競技の準決勝・決勝の組合せ及びレーン順は、招集所の掲示板に発表する。
- ⑥100m、200m、4×100mリレーについては準決勝を行う。
- ⑦本大会は、参加標準記録を設けているが、トラック長距離種目において、競技日程を著しく遅らせる可能性がある場合は、審判長の判断で競技を中止させることもある。

(2) フィールド競技

- ①試技順はプログラム記載の通りとする。
- ②フィールド競技における競技場内での練習は、すべて競技役員の指示に従うこと。
- ③跳躍種目及びやり投の競技者は、助走路の外側に主催者が用意した規定のマーカーを2個まで置くことができる。ただし、走高跳は競技者が準備したマーカーを助走路内に置くこととする。
- ④棒高跳の競技者は、希望するアップライト位置を競技者係備え付けのアップライト申告書に記入し、競技者係に提出する。その後、位置を変更したい場合は跳躍審判員に申し出ること。

競技注意事項

- ④砲丸投・円盤投・ハンマー投についてはサークル直後あるいはサークルに接して、主催者が用意したマーカーを1つだけ置くことができる。これらのその撤去は使用した競技者が責任をもって行うこと。
- ⑤棒高跳の競技者は、希望するアップライト位置を競技者係備え付けのアップライト申告書に記入し、競技者係に提出する。その後、位置を変更したい場合は跳躍審判員に申し出ること。
- ⑥走高跳、棒高跳のバーの上げ方は、優勝が決まって最後の1人となるまでは以下のとおりとする。ただし、天候等の状況により練習の高さを含め変更することもある。

| 種目 | 練習の高さ | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | … |
|-------|----------------|------|------|------|------|------|------|---------|
| 男子走高跳 | 1m70/1m90 | 1m75 | 1m80 | 1m85 | 1m90 | 1m95 | 1m98 | 以後 3cm |
| 女子走高跳 | 1m40/1m60 | 1m40 | 1m45 | 1m50 | 1m55 | 1m58 | 1m61 | ずつ |
| 男子棒高跳 | 2m70/3m60/4m40 | 2m80 | 3m00 | 3m20 | 3m40 | 3m60 | 3m70 | 以後 10cm |
| 女子棒高跳 | 1m70/2m20/2m80 | 1m80 | 2m00 | 2m20 | 2m40 | 2m50 | 2m60 | ずつ |

第1位決定のためのバーの上げ下げは、走高跳2cm、棒高跳は5cmとする。

- ⑤男子走幅跳の予選通過記録は6m50とする。予選通過者が12名に達しなかった場合は、それ以外の予選記録上位者を加えて12名で決勝を行うものとする。
- ⑥三段跳の踏切板は、砂場から男子12m、女子9mの地点に設置する。ただし、天候等の状況により変更することがある。
- ⑦ウォーミングアップでの投てき練習は投てき練習場で行い、競技開始前の種目に限り、概ね競技開始2時間前より行うことができる。

(3) リレー競技

4×100mリレーの競技者は、自らが用意した大きさが最大50mm×400mmの粘着テープを1箇所、自らのレーン内に貼ることが許される。それ以外のマーカーの使用は認められない。その撤去は使用したチームが責任をもって行うこと。

(4) 抗議と上訴

競技会進行中に起きた競技者の行為、または順位に関する抗議は、正式結果が発表されてから30分以内（次のラウンドがある場合は15分以内）に、その種目に出場した競技者自身または代理人が「T I C（競技者案内所）」まで申し出る。その抗議に対する審判長の裁定に納得ができない場合は、 Jury に上告することができる。その手続きは、「上訴申立書」を記入し預託金（1万円）を添え、「T I C（競技者案内所）」まで申し出ること。

(5) 助力

- ①競技者が競技場所を離れる場合は、競技役員に申し出なければならない。
- ②ビデオ装置、カセットレコーダー、ラジオ、CD、トランシーバーや携帯電話もしくは類似の機器を競技場内に持ち込むことはできない。
- ③コーチ等からの助言は競技場区域外（スタンド）のみとし、コーチングエリアは設けない。その際、そこで録画した映像を見せることは助力にはならないが、録画した機材（スマートフォン・ビデオカメラ等）を競技区域内にいる競技者が手に持って見た場合は助力とみなし、該当の競技者は失格の対象となる。

6. 表彰について

- (1)各種目優勝者にはメダルと賞状、第2位から第8位には賞状を授与する。
- (2)第8位までの入賞者は表彰を行うので、競技終了後、速やかに表彰者待機場所に集合すること。

7. その他

- (1)競技で使用する用器具はすべて主催者が準備したものを使用しなければならない。ただし、棒高跳用ポールは、個人所有のものを使用できる。
- (2)スパイクピンの長さは、9mm以内とし、走高跳・やり投は12mm以内とする。
- (3)競技場に商品名のついた衣類、バッグを持ちこむ場合は日本陸連「競技会における広告および展示物に関する規程」に順守すること。
- (4)第60回東海陸上競技選手権大会の予選会は、7月に開催する第70回長野県陸上競技選手権大会で実施する。
- (5)スタンドでの撮影は、該当選手の関係者がその該当選手を対象にしたもののみを許可し、それ以外の撮影は一切認められない。